

# 園だより

2020年12月号  
2020年12月1日発行

## 良き知らせ

ゆっくりと秋が訪れ、保育園の桜の葉も黄色やオレンジに美しく色づきました。シンボルツリーのコロラドトウヒは夏の暑さと水不足で枯れてしまったので、クリスマスを迎える前に新しい木に植え替えたことに気づきましたか？アドベント（待降節）にはいり、4つのろうそくを毎週1本ずつ灯しながら、クリスマスを楽しみに待ち望んでいる子ども達です。

「待ち望む」と言うと皆さんはどのようなことを待っていますか？私の通う「松戸キリストの教会」では待ち望んでいたアメリカ人宣教師のレスリー家族が、11月末にようやく来日することが出来ました。4年前に「英語で遊ぼう」の講師だったレスリーさんです。本当ならば3月に来る予定でしたが、国がロックダウンして出入国ができませんでした。待って待って待ち望んで、ようやく日本大使館から許可が下り、家族5人で再びコロナ禍の日本にやってきました。それは、日本でイエスさまを伝えるためなのです。

聖書には4つの福音書がありますが、この「福音」とは「良き知らせ」のことです。2020年前に生まれたイエスキリストを、救い主と信じた人々が、世界中に伝道して、こうして日本にも良き知らせ＝福音が届いたのです。クリスマスにページェントでイエス様の誕生の劇を演じることも、子ども達が讃美と演技を通してこの良き知らせを伝える大事な役割をしているのですね。



コロナ感染症の第三派が来ていますが、星に導かれた博士たちのように遠い道のりであっても暗く険しい道であっても、希望の光を見失わず、子ども達と一緒に光を求めて歩みましょう。

クリスマスの平和が皆様の上にありますように  
園長 三幣典子

「その光は、まことの光で、  
世に来てすべての人を照らすのである。」  
(ヨハネによる福音書 1章9節)